

体験教室

吉祥紋の刺繍をしよう!

日時 10月12日(日)
13:30~15:30
対象 18歳以上
定員 10名(先着順)
参加費 200円
申込み 10月5日(日)
10:00から電話申込

水引細工体験

日時 11月9日(日)
13:30~15:30
対象 18歳以上
定員 10名(先着順)
参加費 200円
申込み 11月2日(日)
10:00から電話申込



勾玉教室

勾玉をつくろう!

日時 11月16日(日) 13:30~15:30
対象 小学生以上 定員 10名(先着順) 参加費 200円
申込み 11月9日(日) 10:00から電話申込



交通案内



- 開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝休日の場合は開館)
祝休日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
12月28日~1月4日
- 観覧料 おとな 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)
＜団体料金＞おとな 160円(110円)
小・中学生 80円(50円)
※団体は20名様以上
※()内はプラネタリウムとの共通観覧の場合の資料館観覧料
- 後援 NHK京都放送局・京都新聞



HPはこちら



資料館マスコット「ごりごりくん」

ごりごりくんは心優しい豪族ゴリラです。
「五里五里の里」の「ごり」とその語感からゴリラをキャラクター化したものです。
古墳・遺跡の多い城陽市の特徴から古墳時代を思わせる姿になっています。

秋季特別展
スタート!

関西文化の日

★印は観覧無料!!!

五里ごり館
開館カレンダー
印は休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	★6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	★3	4	★5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	★25	★26	27	28	29
30						

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

秋季特別展
最終日

五里ごり館通信

五里ごり館

城陽市歴史民俗資料館(文化パルク城陽 西館4階)

〒610-0121 京都府城陽市寺田今堀1番地
TEL 0774-55-7611 FAX 0774-55-7612



文化パルク城陽開館30周年記念 令和7年度秋季特別展

幕末・明治の錦絵

~旅籠松屋所蔵資料から~

令和7年 10月25日(土)~12月14日(日)

関西文化の日11月3日(月・祝)、最終日12月14日(日)は観覧無料

期間中休館日 10月27日、11月4・5・10・17・25・26日、12月1・8日



「皇后宮皇居御出門ノ図」楊州周延(松屋蔵・部分)

「新宮城江御移轉ノ図」楊州周延(大崎歴史文化研究所蔵・部分)

「光氏君遊覧之景」歌川芳虎(松屋蔵・部分)

関連事業

学芸員による展示解説 ギャラリートーク

日時: 11月1日(土) 14:00~15:00
参加費: 無料(観覧料必要)
申込: 当日資料館受付で申込

第96回文化財講演会 「幕末・明治の錦絵 ~その魅力~」

日時: 11月24日(月・祝) 13:30~15:00(13:00開場)
場所: 文化パルク城陽 第3会議室(西館3階)
講師: 大阪公立大学 文学部教授 菅原真弓氏
定員: 50名
参加費: 無料
申込: 11月16日(日) 10:00から電話申込

ワークショップ 「錦絵ポストカードをつくろう!」

日時: 12月7日(日)
①13:00~ ②14:00~ ③15:00~
定員: 各回5名
参加費: 無料
申込: 11月30日(日) 10:00から電話申込

「局六ツ浦 市川團十郎」豊原周周 「春日屋時次郎 尾上菊五郎」豊原周周 「皇后宮皇居御出門ノ図」楊州周延 「春遊源氏遍洛花」落合芳幾 「さくら丸 助高屋高助/時平公 市川春美蔵」 「弥生の春遊る稲本」歌川芳虎 守川周里



にしき え 錦絵とは

江戸時代に流行した浮世絵の一種で、明和年間（1764～1772）以降に広まった多色摺りの木版画のことを指します。鮮やかな色彩が特徴で、多い時には10色以上もの色を重ね摺りする版画は、錦織のように美しいことから「錦絵」の名で呼ばれるようになりました。

錦絵は複数の職人が分業して制作します。版元が題材を選び、絵師が下絵を描き、彫師が版木をつくり、摺師が色を重ねて絵を摺りあげ、完成したものを版元が販売します。庶民にも手に入れやすい価格で販売され、人気の役者絵、美人画、風景画、武者絵など多彩なジャンル（画題）が描かれました。

城陽に残る錦絵 ～旅籠松屋所蔵資料から～

長池宿は京都と奈良を結ぶ大和街道の中間点に栄えた宿場町です。安土桃山時代から江戸時代初めに大和街道に新設され、京都へほぼ5里（約20km）、奈良へもほぼ5里の位置にあります。京都－奈良間は1日がかりの行程であることから、江戸時代を通じて旅人の宿泊や休憩で大いに賑わいました。

その長池に現在ある和菓子店の老舗「御菓子司 松屋本店」は、寺田の村役人の日記である『上田氏旧記』の元禄13年（1700）5月の箇所に見える古い旅籠として、近隣にその名を知られており、江戸時代後期には主に伊勢神宮や大峰山など、社寺への参詣を目的とした組織である参詣講の定宿として利用されていました。松屋に伝わった資料は、江戸時代到大和街道筋に栄えた長池宿の旅籠の経営を知ることができる府内でも貴重な資料であり、「旅籠松屋関係資料」として、京都府登録文化財となっています。今回の展示では、この資料の中に含まれている幕末から明治時代にかけての錦絵10点を初公開します。

役者絵

江戸時代、庶民の娯楽の1つであった歌舞伎は、浮世絵で多く描かれ人気の画題でした。役者絵には、役者が舞台に立つ舞台姿や、楽屋での日常の姿、役者が亡くなった際には訃報を知らせる「死絵」も描かれました。

松屋所蔵の錦絵のうち3点が役者絵であり、右は当時人気のあった尾上菊五郎が演じる演目のシーンで、役者絵で人気絵師の豊原国周が描いています。



左より「春日屋時次郎 尾上菊五郎」・「山名屋浦里 坂東三津五郎」
「禿みどり 尾上菊之助 禿たより 中村正太郎」
豊原国周 明治5年（1872） 松屋蔵

源氏絵

江戸時代後期、『修紫田舎源氏』が出版され、ベストセラーになりました。作者は柳亭種彦、挿絵は歌川国貞。『源氏物語』を翻案したもので、室町時代の光源氏になぞらえた美貌の足利光氏の活躍を描いています。

主人公の足利光氏は、先が2つに分れた「海老茶筌髷」という一風変わった髪型で国貞が描いて以降、この髪形がトレードマークとなり様々な錦絵に登場します。松屋所蔵の錦絵のうち3点が源氏絵で、落合芳幾・豊原国周・歌川芳虎が描いていることから、人気の画題だったことがわかります。



「春遊源氏酒活花」 落合芳幾 文久2年（1862） 松屋蔵

激動の時代、幕末から明治へ



「右幕下頼朝郷土上行例之図」 歌川芳盛 文久3年（1863） 奈良教育大学図書館蔵

戦争絵

幕末から明治時代の戊辰戦争、西南戦争、日清戦争、日露戦争を題材に描かれました。絵師たちは新聞記事などの情報をもとに戦争絵を描き、当時の時事を伝えるメディアの役割を担いました。

月岡芳年の「魁題百撰相」は、旧幕府軍である彰義隊員を歴史上の人物に見立てて描いています。



「魁題百撰相 上杉輝虎入道謙信」
月岡芳年 明治元年（1868）
同志社大学歴史資料館蔵



「魁題百撰相 足利義輝公」
月岡芳年 明治元年（1868）
同志社大学歴史資料館蔵

新聞錦絵

明治7年（1874）に浮世絵師の落合芳幾が初の新聞錦絵「東京日日新聞」を発行します。内容は殺人事件や不倫など刺激的なもので、庶民に大人気となりました。当時の新聞は漢文調で難しい内容でしたが、錦絵が挿絵として加わり、文章もわかりやすい内容で漢字にふりがなもふられるなど、庶民にも手に取りやすいものになりました。



「東京日日新聞」838号
落合芳幾 明治7年（1874）
大崎歴史文化研究所蔵

開化絵

明治に入ると日本は西洋文化を取り入れて急速に変化していきます。洋装・洋髪の人や洋風建築、鉄道や馬車、人力車、蒸気船など文明開化を画題に描いたものを開化絵といいます。またこれまで描かれてこなかった天皇や皇后、江戸時代には描くことが禁止されていた政治家なども描かれるようになります。安くて発色のよい輸入顔料による鮮やかな赤い色彩が開化絵の特徴です。



「横浜海岸各国商館図」 三代歌川広重
明治4年（1871） 奈良教育大学図書館蔵



「扶桑高貴鏡」 楊州周延
明治19年（1886） 同志社大学歴史資料館蔵